第一礼拝次第

ﾒｯｾｰｼﾞ:渡真利彦文牧師
ﾌﾟﾚｲｽﾘｰﾄﾞ:郭永東牧師

前　奏		
頌　栄	５４０	会　衆
主の祈り		会　衆
プレイズ	「誰も見たことのないことが」 「叫べ全地よ」	会　衆
聖書朗読	列王記下９：１～３	司　会
祈　祷	（旧約聖書ｐ591）	司　会
賛　美	讃美歌６	会　衆
メッセージ	「目に化粧をし」	牧　師
祈　祷		牧　師
賛　美	新生１４	会　衆
聖 餐 式		
献　金		
報　告		司　会
頌　栄	新生６７２b	会　衆
祝　祷		牧　師

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

第二礼拝次第

ﾒｯｾｰｼﾞ：郭永東牧師
司会：伊禮信義先生
聖書：マラキ1:1～５（旧約聖書 p1496）
ﾒｯｾｰｼﾞ：「わたしは破壊する」
ﾌﾟﾚｲｽﾞ：「いのちの光」
「 恵み 」
賛美：　新生３０１　新生５４４

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

ファミリー礼拝

ﾒｯｾｰｼﾞ：伊禮信義先生
聖書：士師記６：11～16
ﾒｯｾｰｼﾞ：「ギデオン」

＜巻頭言＞

「わかりやすい旧約聖書の思想と概説」より抜粋　　著者　西 満

列王記が取り扱っている年代は、だいたい紀元前970年から560年までの約400年間です。列王記は、この400年間に生きた40人の、ソロモンおよび南北イスラエル王朝の王の治世を記しています。その他に預言者エリヤ、エリシャについても記しています。一巻の書でこれほど長い期間にわたる大勢の人物、しかもすべての王の業績について記した旧約聖書の書物は、創世記を除いてほかにありません。

旧約聖書の歴史は、普通の歴史書とは違い、神の言葉を中心とした救いの歴史、贖いの歴史なのです。しかし、列王記はむしろイスラエル民族の罪の歴史、反逆の歴史と言ったほうがよいほどです。それはイスラエルの人たちの罪が繰り返しこれでもかこれでもかというほどに記されています。しかし、その中で神のイスラエルに対する契約に基づいた愛、選び、贖いの思想が記されています。特に預言者のメッセージにはその思想が豊かに語られています。そして神に従った者への豊かな祝福が記されています。その歴史観の根底にあるのは神の契約であり、律法です。神の律法を守れば祝福があるが、守らなければ裁きがあるという考えです。

そのことは五書全体を通して語られていますが、特に申命記に具体的に要約されています。列王記、歴代誌、エズラ、ネヘミヤ記を読むにあたって大切なのは、申命記ではないかと思います。

今の時代、日本の教会のクリスチャンが旧約聖書に親しみ、その思想を理解しキリストの十字架と復活の福音の素晴らしさを自分のものとしてほしいと願っています。